



竹田市は第 1 次産業の人材確保を図る「農業サポーター活用支援事業」を始めました。

① この支援事業はどのようなものですか？支援対象や支援の内容を説明してください。

.....

②この事業の狙いは何ですか？

.....

③竹田市の農家の高齢化と担い手不足の現状は？また、市がこの事業の実施を判断したのはどんな理由からでしょう。

.....

④支援事業を活用する農家の人は何と話していますか？

.....

市農政課によると、農家の高齢化と担い手不足は深刻。2015年の農業センサスで市内の農林業従事者は3,384人、平均年齢は67.7歳だった。感染拡大が追い打ちを掛け、外国人技能実習生の確保も難しくなっているという。半面、幅広い業種で収入減や失業などが生じたとみられ、農業に興味を高めてもらう機会になる」と判断した。支援事業で市が農家に支



新型コロナウイルスの影響で雇用情勢が悪化したことを受け、竹田市は第1次産業の人材確保を図る「農業サポーター活用支援事業」を始めた。新たに従業員を雇う農家に対し、賃金の一部や交通費などを補助する内容。失業者の増加が懸念される中、労働力を農業分野へ転換するのを促し、人手不足の解消を狙う。

雇用情勢悪化受け竹田市

賃金の一部や交通費補助 労働力 農業へ



農業サポーター活用支援事業による人材不足解消を期待している猪野精一郎さん＝竹田市荻町

賃金の一部や交通費補助

払う賃金の補助は1日当たり最大4千円。雇う期間は短期でも長期でも良い。交通費は上限が月額3万円、旅費やホテルの宿泊費を1泊6千円まで支援する。通費は上限が月額3万円、旅費やホテルの宿泊費を1泊6千円まで支援する。

る。雇用保険と傷害保険にも加入し、雇用環境を整える。関連費用約2500万円を盛り込んだ補正予算案を15日の臨時市議会で可決。同日から支援事業を開始した。現在、カボスやピーマン、シイタケなど約30軒の農家が事業を活用。市が出資する農村商社わかほのホームページなどを通じて働く人を募集している。市内荻町政所でミニトマトを栽培する猪野精一郎さん(53)は「6月から収穫作業が忙しくなる。市内で人材はなかなか見つからない。支援事業は市外の人材が竹田の農業に目を向けるきっかけになるかもしれない。働いて、就農も考えてくれたらうれしい」と話した。